



加入活動報告



MMWINでは、患者さんへの加入説明ブースを東北大学病院、大崎市民病院、大崎市民病院健康管理センター、栗原中央病院、みやぎ県南中核病院に設置しております。その他の施設へもスタッフがお伺いし、加入活動を実施しております。今回はその中から、3施設の活動状況をご紹介します。

仙台市青葉区

『東北労災病院』



活動期間：2021年1月～3月
活動回数：23回(3/17在)
加入患者数：247名

【加入した患者さんの声】
他の病院にも通っているのですが、ここで診てもらったことがわかってもらえるのはいいですね

東松島市

『やもと眼科』



活動期間：2021年2月～3月
活動回数：4回(3/17現在)
加入患者数：20名

【加入した患者さんの声】
救急搬送された時に自分の病歴や薬歴をすぐに伝えられないので入った。県外の仕事が多いので全国で使えるといい。



宮城県内各所で加入活動を行っています



岩沼市

『クオール薬局岩沼東店』



活動期間：2021年1月～4月
活動回数：9回(3/17現在)
加入患者数：75名

【加入した患者さんの声】
こういう情報共有のシステムがあればいいと思う。みんなが加入するようになればいいと思う。

今後も、施設のご要望に応じて加入活動を実施してまいりますので、MMWIN加入活動支援のご要望等がございましたら、お気軽にご連絡を賜りますようお願いいたします。



発行：一般社団法人みやぎ医療福祉情報ネットワーク協議会
〒980-0811 仙台市青葉区一番町1丁目15番19号

【事務局】 TEL：022-395-6312 FAX：022-395-6313

E-mail：office@mmwin.or.jp URL：http://mmwin.or.jp/

【サポートセンター】 TEL：022-399-6880 E-mail：support@mmwin.or.jp

当協議会からのメールを受信できない場合がございますので、「@mmwin.or.jp」からのメールを受信できるように設定してください。
『MMWIN』、『みんなのみやぎネット』は、一般社団法人みやぎ医療福祉情報ネットワーク協議会の登録商標です。
※本誌の収録内容の無断転載、複写、引用、改変等を禁じます。



MMWIN® 通信

みんなのみやぎネット NEWS

2021
3.26
vol. 64

発行：みやぎ医療福祉情報ネットワーク協議会

宮城県の新型コロナウイルス感染症対策に MMWINが活用されています

宮城県の新型コロナウイルス感染症対策にMMWINが活用されていることをご存知でしたでしょうか？
新型コロナウイルスの陽性患者は、軽症・無症状の場合療養施設で一定期間過ごすこととなりますが、症状が急変・悪化した際には感染症指定医療機関に転院する必要があります。そのためには、調整側において患者情報を正確に、かつ迅速に把握しなければなりません。

宮城県では、療養施設に定期的に往診医師を派遣し、施設内でレントゲン検査や血液検査を実施しており、その検査結果をMMWIN上にアップロードする仕組みが2021年1月に構築されました。アップロードされた検査結果は、医療調整本部にてほぼリアルタイムで参照でき、受入病院との入院調整の円滑化に役立てられています。

宿泊療養施設（ホテル）

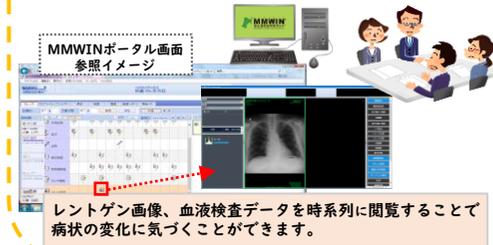
往診医師が診察、必要に応じて検査を行います。



胸部レントゲン検査 採血検査

医療調整本部（県庁内）

宿泊療養施設での検査結果や既往歴をMMWINで確認します。重症化が予測される場合、入院調整が行われます。



レントゲン画像、血液検査データを時系列に閲覧することで病状の変化に気づくことができます。

レントゲン画像や血液検査データがMMWINにアップロードされます

検査結果を共有し入院調整が行われます

データセンター

これまでの療養経過がMMWINで参照できます



感染症指定医療機関

この取り組みは全国的に見ても例がなく、NHKや仙台放送といった報道機関にも取り上げられました。報道内容につきましては、ホームページにリンクを掲載しております。

参加施設の声

【 県北圏 】
大崎市三本木

岩渕胃腸科内科クリニック

院長 岩渕 利光 先生

日頃より、MMWINを活用いただいております、岩渕院長にお話を伺いました。



岩渕院長

MMWINの活用について

2018年にクリニックを建て替えた際に、電子カルテと共に導入しました。

立地上、地域の中核病院である大崎市民病院に紹介する事が多いのですが、市民病院での血液検査やCT等の画像データ、退院サマリや投薬内容まで確認できるので患者さんの状態を把握するのに非常に役立っています。

患者さんのMMWINへの加入については、大崎市民病院への紹介時に、併せて加入をお願いする事が多いです。

また、休日当番医や他院休診日に他院通院中の方が体調不良で当院を受診される事もありますが、その際におくすり手帳がない場合、投薬内容や病名が分からず困ることも多いのですが、MMWINに加入している事で患者さんの状態を正確に把握する事が可能になり、薬剤の重複も避けることができます。

今後の活用について

上記のように非常に良いシステムですが、まだまだ認知度が低く、患者側だけでなく医療従事者側にMMWINのメリットを理解して頂く事でより加入者が増えるのではないかと考えています。

現在、当クリニックでの画像検査内容のアップロードは行っておりませんが、今後は内視鏡画像をアップする事で、他医療機関受診時の情報提供になればと考えております。



クリニック待合室

MMWINを活用した

病診連携のご紹介

南中山クリニック
【 仙台圏 】 青葉区

MMWINネットワークは、かかりつけ医と専門医が患者情報を共有することで病診連携を推進することができます。喘息などのアレルギー疾患は近年増加傾向にあり、いまや国民の約2人に1人が何らかのアレルギー疾患に罹患していると言われております。「喘息治療における病診連携課題」にMMWINの情報共有ツールを活用し、患者の照会・逆紹介の際に、より適切な情報共有が可能となります。

南中山クリニック院長 京極史郎先生が他の医療機関に先駆けて東北大学呼吸器内科と連携している事例をご紹介します。

◆喘息治療における病診連携の特徴◆

- 医療情報連携ネットワーク（東北大学病院呼吸器専門医）と連携することでコントロール不十分な患者さんに早期に専門医での診療機会を提供できます。
- 呼吸器合併症疑い症例の随時相談・助言を受けられます。
- 紹介の相談が簡便になります。

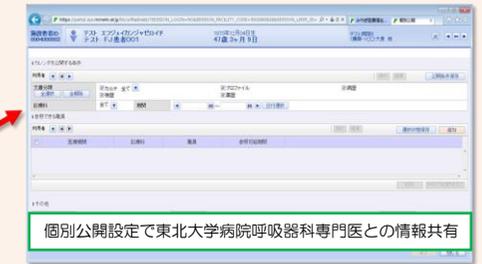


◆かかりつけ先生のMMWIN操作◆

MMWINの「個別公開機能」を使って、東北大学呼吸器内科と患者情報を共有しています。東北大学病院に通院歴のない患者様でも可能です。



MMWIN操作画面



個別公開設定で東北大学病院呼吸器科専門医との情報共有



南中山クリニック院長 京極先生

京極 史郎先生から

東北大学病院呼吸器専門の先生との情報交換は、個別公開機能による情報共有のほか、セキュリティの高いコミュニケーション機能やメール機能を活用しています。電話とは違い、気管支喘息、間質性肺炎など随時相談したい時でも、いつでも連絡できることは、とても便利であり、患者への安心を提供してくれます。スマートフォンのメールアドレスに着信通知がとどき、急な連絡が必要な時にもとても便利です。